

小形農園 (小形 喜治)

視察受入れ：要相談

報道機関受入れ：要相談

福井県
越前市



○小形農園 (小形喜治) は、トマト、きゅうりの大規模施設園芸に取り組んでいるが、規模を拡大していく上での人手不足による労働力確保のため、親の知り合いである、A型及びB型就労継続支援事業所を持つ社会福祉法人「福授園」に相談し、平成29年より障害者による、除草や葉かき、誘引作業または資材等のかたづけ作業等の施設外就労に連携して取り組むことで、障害者の就労拡大を図る。

基本情報

- 所在地：福井県越前市
- 団体名：小形農園 (小形喜治)
- 取組パターン：連携型

● 選定表彰：-

● 主力商品：

トマト及びきゅうり (大規模施設園芸)、
ニンジン (露地園芸)、米



取組の概要

○トマト、きゅうりの大規模施設ハウス6棟 (26a)にて春、秋どり栽培を通年で行う。
ニンジン (露地：60a)、米 (2ha) 栽培。

○社会福祉法人「福授園」の施設外就労として、ハウス周辺の除草、トマトの葉かき、きゅうりの誘引、灌水チューブやマルチの回収・撤去作業を行う。

○労働力は、家族2人、パートは常時1人 (繁忙期は4名)、施設外就労は週3日で、指導員1名と障害者5名の6人体制で、午前10時から11時半までの1時間半作業を年間通じて48週程度実施。

○取り組み当初は、収穫作業や選別作業にも試みたが、商品ロスや作業効率が悪く断念した。現在は障害者の適性や慣れを考慮して、就労期間の長い障害者以外は簡単な作業を中心に実施するなどの作業計画としている。

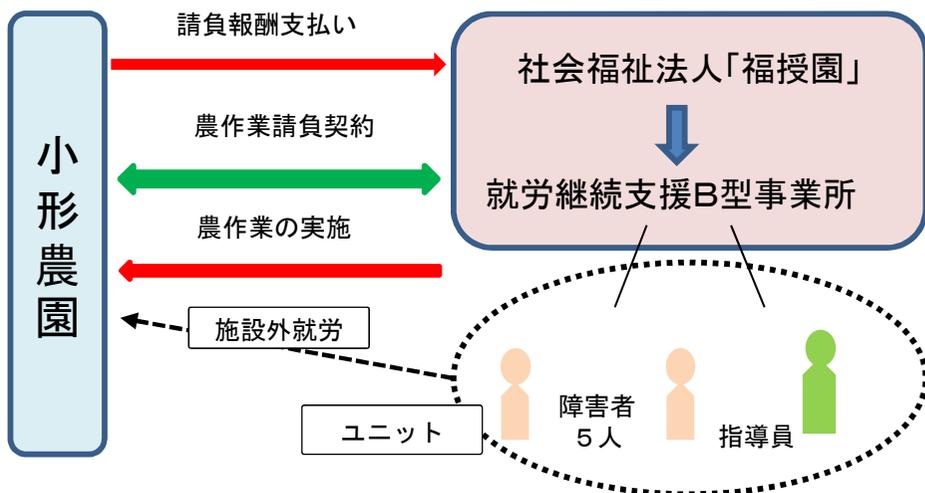


トマトの葉かき作業



葉かき後の回収作業

体制図



取組の成果

○ハウス周辺の草刈りは刈払い機の使用ができず困っていたが、障害者が手作業で行ってくれることで草管理が楽になった。

○トマトの残渣処分や使用済み資材の回収作業等を障害者が行うことで、自身やパートは収穫や選別作業に専念でき、作業の効率化が進むことで、出荷量を増やすことができるようになった。

○賃金はB型就労の平均以上の設定としており、障害者も働く意欲が芽生え持続的に作業を委託できている。

所在地 ▶ 福井県越前市庄町22-31

連絡先 ▶ TEL:0778-22-7425 FAX: - E-mail:tuhiyo@gmail.com

ウェブサイト ▶ -

【取組のプロセス】

2016年～

社会福祉法人
に相談

きっかけ

○施設園芸で就農したが、慢性的な労働力不足であったことから、親の紹介で社会福祉法人「福授園」に相談。

労働力確保のため農福連携について相談

○社会福祉法人「福授園」においては、既に農福連携を実践しており、施設外就労の経験が豊富であること、また、就労継続支援B型事業所も4事業所を運営しており、利用者についても多数おり、積極的に相談に乗ってくれた。



園芸ハウス

2016年～

社会福祉法人
との協議

作業内容等の協議及びおためし施設外就労

○1年をかけて、「福授園」と委託作業等についての協議を重ね、おためし的に各種作業にも来てもらいながら、可能な委託作業や安全面での責任の所在や人件費等について話し合いを継続した。



トマトの誘引作業

2017年～

農作業請負契約
を結び施設外就
労開始

農作業請負契約を締結し本格的に農福連携を開始

○本格的に農福連携を開始して5年間に経過した。当初は障害者が作業に慣れるまで失敗を繰り返す、付きっきりでいたりして作業の手が止まり効率が悪くいろいろ試行錯誤を繰り返した。現在は、経験3年以上の障がい者もおり、作業にも慣れ委託している作業はスムーズになり時間的な作業効率も向上している。



トマトの収穫作業

今後の
展望

真のWinWinを目指す

○就農7年目となり、認定新規就農者から認定農業者となった。施設園芸を主力として規模拡大も視野に入れており、農福連携は労働力確保の上で重要な手段と理解している。農福連携はボランティアでもなく、双方が努力して真のWinWinを目指したい。
○現在は施設外就労を行っているが、将来は障害者の雇用も考えている。



きゅうりの誘引作業